

(7) クモ類

レッドリストに掲載された各クモ類について、種ごとに形態的な特徴や分布、県内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。準絶滅危惧種、情報不足種についても、絶滅危惧種と同じ様式で記述した。

【掲載種の解説（クモ類）に関する凡例】

【分類群名等】

対象種の本調査における分類群名、分類上の位置を示す目名、科名等を各頁左上に記述した。目・科の範囲、名称、配列は、原則として「日本産クモ類目録 Ver.2008 R1」（谷川明男,2008：インターネット上にて公表）に準拠した。

【評価区分】

対象種の愛知県における評価区分を各頁右上に記述した。参考として「その他無脊椎動物レッドリスト」（環境省,2006）の全国での評価区分も各頁右上に記述した。また、各評価区分に対応する英文略号も同じ場所に記述した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。和名及び学名は、原則として「日本産クモ類目録 Ver.2008 R1」（谷川明男,2008：インターネット上にて公表）に準拠した。これに伴い、キノボリキヌキリグモ（谷川,2001）をキハダキヌキリグモ（谷川,2008）に和名変更した。

【選定理由】

対象種を愛知県版レッドデータブック掲載種として選定した理由について記述した。

【形態】

対象種の形態の概要を記述し、写真またはスケッチを掲載した。

【分布の概要】

対象種の分布状況の概要を記述した。また、本調査及び平成9年度から平成13年度にかけての「レッドデータブックあいち2002 動物編」作成時の調査において、対象種の生息が現地調査、文献調査及び標本調査によって確認された地域のメッシュ（標準地域メッシュ・システムにおける5倍メッシュ）を県内分布図として掲載し、現地調査による確認地域、文献調査または標本調査による確認地域を●印で表示した。なお、同一メッシュ内に含まれる生息地が複数であっても1点として表示した。

【生息地の環境／生態的特性】

対象種の生息地の環境条件及び生態的特性について記述した。

【現在の生息状況／減少の要因】

対象種の愛知県における現在の生息状況、減少の要因等について記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

【関連文献】

対象種に関連する文献の内、代表的なものを、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

【 クモ類 執筆者 】

須賀瑛文

緒方清人

【 クモ類 調査協力者 】

次の方々に現地調査、標本提供、資料参照等で協力していただいた。

大原満江 柴田良成 杉山時雄 原 穰 村上 勝

(敬称略)

アケボノユウレイグモ *Belisana akebona* (Komatsu)

【選定理由】

個体数の少ない種である。石垣・崖地・洞窟などの暗所に棲んでいるが、生息地は限られている。近年開発や生息地の乾燥化等の影響で生息域が縮小。個体数の減少が心配される。

【形態】

雌雄とも体長 2～3mm。眼は 6 眼で左右に 3 眼ずつの 2 群になっている。腹部は丸く後方で高まる。背面に 3～4 対の斑紋があるが、色彩に変化が多く斑紋のない個体もある。



岡崎市(旧額田町)石原町(闇苧溪谷), 2007 年 5 月 23 日, 緒方清人 撮影

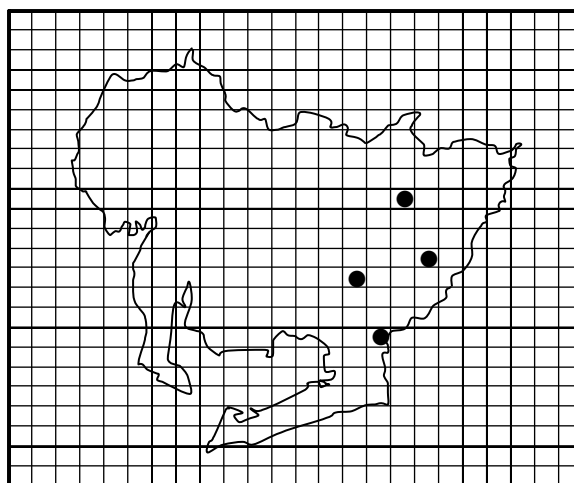
【分布の概要】

県内では、新城市（旧鳳来町）・北設楽郡設楽町・岡崎市（旧額田町）・豊橋市に分布する。

2006～2008 年の鳳来町と設楽町の調査では、生息を確認することができなかった。

国内では、本州に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

湿った暗所を好み、石垣のすき間や崖地・洞窟の壁面の窪みなどに不規則網をはる。

【現在の生息状況／減少の要因】

鳳来寺山では石垣で、設楽町では崖地に棲んでいるが、その後の調査では確認できなかった。豊橋市では嵩山町蛇穴に少数が生息しているにすぎない。新たに、岡崎市（旧額田地区）で生息を確認した。

【保全上の留意点】

石垣の修復や崖地の工事には十分な配慮が必要である。特に、石垣の修復では、石のすき間を空けること。コンクリートですき間を埋めるなどは極力避けるべきである。生息地の崖地では道路工事等で生息場所が消滅する。洞窟では入り口から浅い所に棲んでいるので、観光等一般の立ち入りは慎むべきである。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.27, p.171. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.29. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.22. 文一総合出版, 東京.

ミカワホラヒメグモ *Nesticus mikawanus* Yaginuma

【選定理由】

県内では豊橋市嵩山町の洞窟群に棲んでいるが、いずれも個体数は少ない。模式産地は新穴で、1979年に新種記載された（八木沼, 1979）。

【形態】

雌雄とも体長 4～5mm。頭胸部は赤褐色で腹部は黄褐色。

個体により黒色の班紋があるものと無班型のものがある（新海, 2006）。雄の触肢の小杯葉は大きく、指を広げたような形をしている。この小杯葉の特異な形が分類上の要点となる。特に形態的に見て、本種は他の群との関連がないと言われている。



豊橋市嵩山町(蛇穴), 2008年7月6日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

愛知県固有種で、豊橋市嵩山町の洞窟群（蛇穴・新穴・水穴・長彦洞・カエル洞）に分布する。

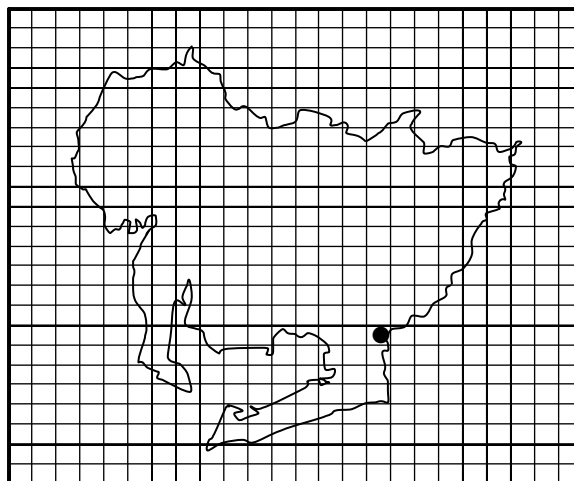
【生息地の環境／生態的特性】

蛇穴では、洞窟の入り口より、10～30メートル間に生息するが多い。壁面の窪みなどに不規則網を張り、♀成体は周年みられるが、♂成体は春秋の時期に限られる。

【現在の生息状況／減少の要因】

2006年から2008年の蛇穴の調査では8～13頭を確認したにすぎない。減少率は不明だが生息地の環境悪化から減少傾向にあるのは間違いないであろう。2008年7月6日の新穴での調査で9頭の生息を確認した。

県内分布図



【保全上の留意点】

蛇穴では、洞窟の入り口から浅い所に棲んでいるので、観光等一般の立ち入りは慎むべきである。

【引用文献】

T. YAGINUMA, 1979. A Study of the Japanese Species of Nesticid Spiders. 追手門学院大学文学部紀要, 13: 255-287.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.22. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.57. 保育社, 大阪.

キシノウエトタテグモ *Latouchia swinhoei typica* (Kishida)

【選定理由】

カネコトタテグモ同様地中性のクモで、都市周辺の神社、仏閣、城、人家など地中に棲むため、カネコトタテグモ以上に環境が破壊され激減、絶滅の恐れが大である。また、本種にはクモタケが寄生することが多く、その犠牲になる数も多い。

【形態】

体長雌 10～15mm、雄 9～12mm。背甲の中窩は横向き。頭胸部には疎らな毛がある。胸板にくぼみがある。



東海市荒尾町(しあわせ村), 2006年4月30日, 須賀瑛文 撮影

【分布の概要】

県内では、広く分布するが局所的で産地は限られている。犬山市（犬山城敷地内）・名古屋市昭和区（八事・興正寺境内ほか）、千種区、瑞穂区、中区（名古屋城敷地内ほか）、熱田区・瀬戸市（定光寺）・岡崎市（岡崎城敷地内）・東海市・安城市・豊田市などで分布を確認している。

国内では、本州・四国・九州に生息するが、その分布は局所的である。

【生息地の環境／生態的特性】

崖地に横穴を掘り、入り口に片開きの扉を付ける。縦穴も作るが、愛知県ではほとんどが横穴に棲む。都市またはその周辺部に棲み、人里離れた山中に生息しない。扉にコケや土を付けるのはカネコトタテグモと同様である。

【現在の生息状況／減少の要因】

前回（2001年）の調査時に比べて、名古屋市内の八事・興正寺境内はじめ、すべての場所で、生息数はさらに減少している。減少の主な要因は、住宅建設・道路の改修等による崖地の破壊、または崖地のコンクリート化である。また、除草剤や農薬散布等が影響を及ぼし、その減少に拍車をかけているものと思われる。クモタケの寄生による被害も考えられる。

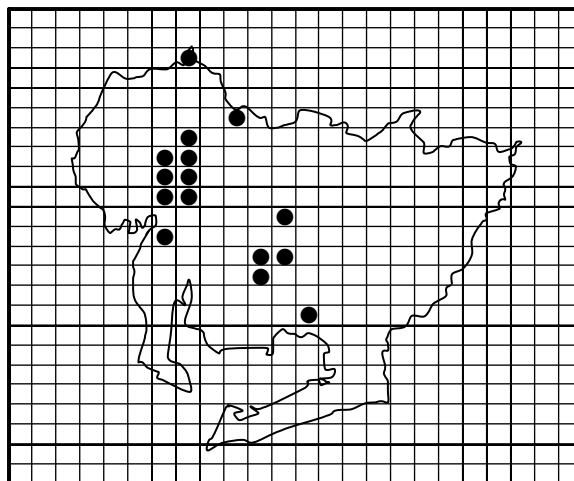
【保全上の留意点】

崖地改修の際の工事に留意し、生息区域での農薬等の散布に際しては、十分な配慮が必要である。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.19, p.163. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.3. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.22. 文一総合出版, 東京.

県内分布図



シロタマヒメグモ *Enoplognatha margarita* Yaginuma

【選定理由】

北方系で、県内での記録は 2 例のみである。もともと個体数の少ない種（希産種）で、その後の調査でも確認されなかった。

【形態】

雌は体長 5～6mm、雄は体長 4～5mm で頭胸部は黄褐色。腹部は淡い黄色で、背面の縁に灰色の葉状斑がある。葉状の鋸葉状だけが黒色で連続を欠く。



設楽町裏谷, 1990 年 7 月 18 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、北設楽郡豊根村（茶臼山）と北設楽郡設楽町裏谷から記録された。

国内では北海道・本州（北部、中部・関東地方の高地、亜高山地帯）に分布する。

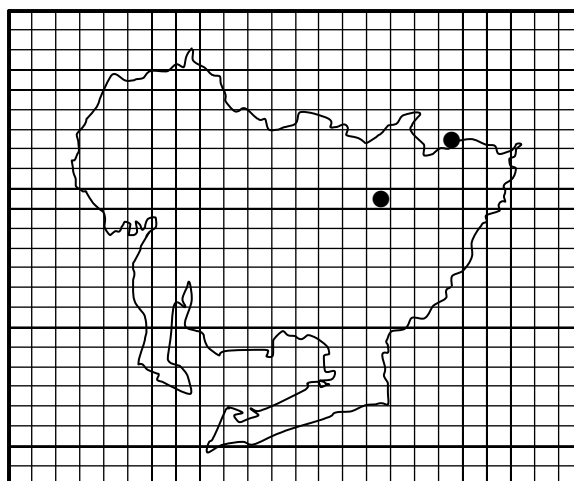
【生息地の環境／生態的特性】

寒地性のクモで、山地の草原に棲む。大型草本類の草間に不規則網を張り、草の葉をまわめて住居の中に潜む。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内では、生息できる適地が少ない上、もともと個体数は少ない。生息状況や減少の要因は不明である。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地では、周辺の森林を含めて草原の環境保全に留意する。特に、道路工事などの開発工事の時には注意する必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.37, p.181. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.9, p.39. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

キヌキリグモ *Herbiphantes cericeus* (S. Saito)

【選定理由】

県内では、もともと生息適地が少なく、採集・観察例の少ない種（希産種）である。森林の伐採や開発等に伴う生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

雄雌とも体長4～5mmで頭胸部・腹部は黄褐色で細長い。雌の頭胸部中央に短い黒色縦斑がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2008年7月21日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市（旧稲武町）面の木・設楽町裏谷の温帯林に分布する。

国内では北海道・本州（高地）・四国（高地）に分布する。

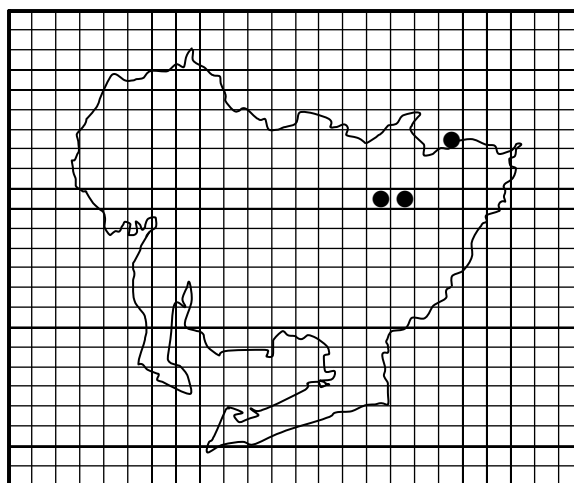
【生息地の環境／生態的特性】

寒地性のクモで、温帯林の笹原に棲む。枝葉間にシート網を張り、普段は葉裏に静止する。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息環境が温帯林の笹原に限られている。また、もともと個体数は少ない。さらに、最近の調査では、裏谷以外から確認されていない。生息域の縮小にともない減少傾向にある。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での開発の際、笹原の保全が肝要である。また、温帯林を含めた環境を保全すべきである。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.48, p.189. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.16, p.72. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.140. 文一総合出版, 東京.

キハダキノキリグモ *Herbiphantes longiventris* Tanasevitch

【選定理由】

県内では、北設楽郡設楽町で記録されるだけでの、極めて採集・観察例の少ない種（希産種）である。森林の伐採や開発等に伴う生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

雄雌とも体長3～4mmで頭胸部は褐色・腹部は黄褐色で細長い。雄は頭胸部・腹部とも褐色である。歩脚は細長く、各節に黒色輪紋がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2007年9月15日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、北設楽郡設楽町裏谷の温帯林に分布する（緒方, 1996）

国内では北海道・本州（高地）の一部に分布する。

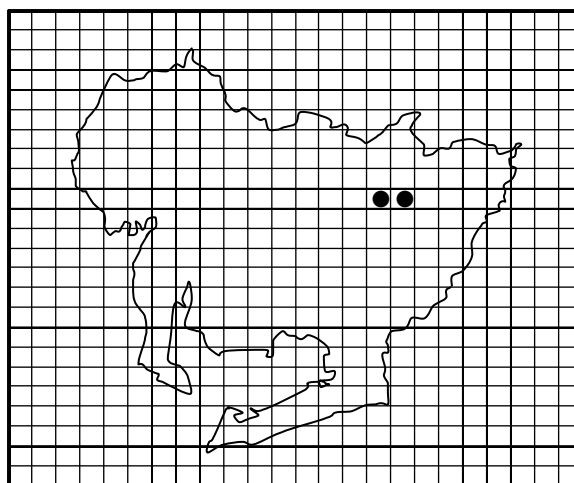
【生息地の環境／生態的特性】

寒地性のクモで、温帯林の樹幹の表面に着生するコケ類の表面にシート網を張る。8～10月ごろ成体になる。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息環境が温帯林の樹幹の表面に着生するコケ類の表面に限られている。特殊な環境だけに、もともと個体数は少ない。さらに、最近の調査では、生息域の縮小にともない減少傾向にある。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での開発の際、森林の保全が肝要である。また、温帯林を含めた環境を保全すべきである。

【特記事項】

和名をキノボリキノキリグモからキハダキノキリグモに変更した（新海, 2006）。

【引用文献】

緒方清人, 1996. 真正クモ類. 設楽町誌 自然編. 471-509. 設楽町.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.140. 文一総合出版, 東京.

チクニドヨウグモ *Metleucauge chikunii* Tanikawa

【選定理由】

県内では、局地的に分布し個体数も少ない。また、生息に適した環境が少なく、開発等に伴う生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌は体長 7.5～12mm、雄は体長 6.5～8mm（谷川, 1992）。背甲は灰褐色で眼域から中央にかけて黒褐色の縦斑がある。腹部上面は濃茶褐色の斑紋で縁どられ、腹部中央に白色の縦斑がある。更に、その中に前方から中央にかけて濃茶褐色の縦斑がある。



豊田市王滝町(王滝溪谷), 2007年5月23日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市（旧豊田市）・豊田市（旧稲武町）・豊田市（旧足助町）・北設楽郡設楽町・岡崎市（旧額田町）に分布するが、局地的である。

国内では日本全土に分布する（新海, 2006）がいずれも採集例は少ない。

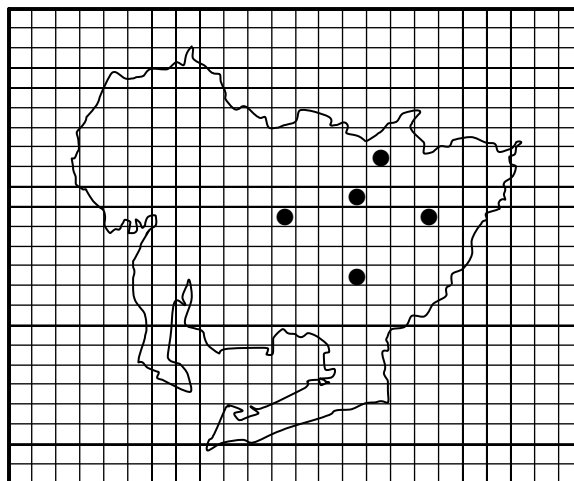
【生息地の環境／生態的特性】

山地の溪流の石の間に水平円網を張る。夜行性で昼間は石の影にひそんでいる。主に、カゲロウやトビケラなど水生昆虫を捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊田市王滝溪谷では十数頭が生息しているが、他の地域では数頭と少ない。新たに、岡崎市暗刈溪谷で確認したが、数頭であった。近年、アウトドアブームによる、河川敷の環境破壊も懸念される。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息地での河川工事には、十分な配慮が肝要である。

【引用文献】

- A. TANIKAWA, 1992. A Revision of the Japanese Spiders of the Genus *Metleucauge* LEVI, 1980 (Araneae: Tetragnathidae), Acta Arachnol., 41 (2): 161-175.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

- 千国安之輔, 2008. 改訂版 写真日本クモ類大図鑑. p.808. 偕成社, 東京.

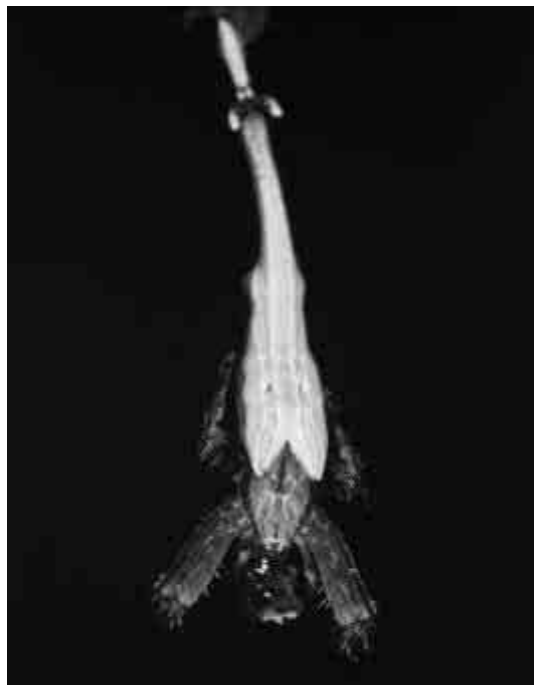
キジロオヒキグモ *Arachnura logio* Yaginuma

【選定理由】

もともと個体数は少ない種である。したがって、県内で現在までに確認できた分布地も少ない。

【形態】

雌の体長は25～28mmであるが、雄は極端に小さく1.5mm、形も全く違う。雌の背甲は黄白色、腹部は黄褐色である。腹部の前方は二つに分かれ背甲の後部を覆い、後端は長く尾状に伸び、その先端部に丸い突起がある。胸版は黄白色で多数の黒点がある。雄は、極端に小さく1.5mm、腹部前方は雌のよう分岐せず、後端の尾状部もないので別種のようにある。



岡崎市天神山緑地, 2004年7月25日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、丘陵地・山地の針葉樹林には広く分布するものと思われるが、個体数が少ないためか確認された地域は瀬戸市・豊田市（旧稲武町）・豊田市（旧豊田市）・岡崎市である。

国内では、本州・四国・九州・南西諸島に広く分布する。

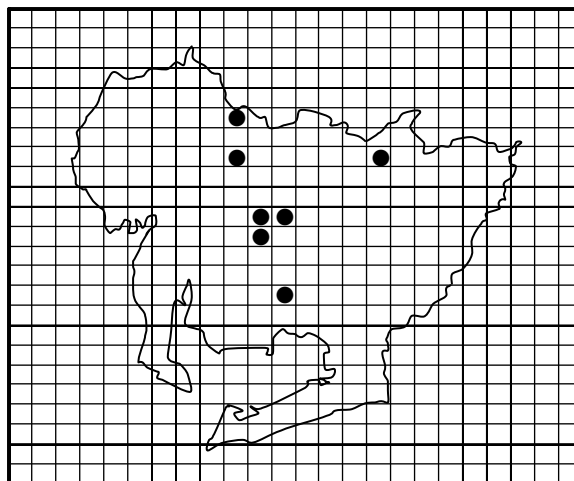
【生息地の環境／生態的特性】

山地のスギ・ヒノキなどの針葉樹林に生息することが多い。枝の付け根にキレ網を張り、その中心にとまる。

【現在の生息状況／減少の要因】

個体数が少ないので不明な点が多い。分布を含めて今後の調査が必要である。近年、豊田市琴平町（トヨタの森）では1～2頭が毎年のように記録されている。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息確認地を中心とした針葉樹林の保全。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.77, p.213. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.116. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

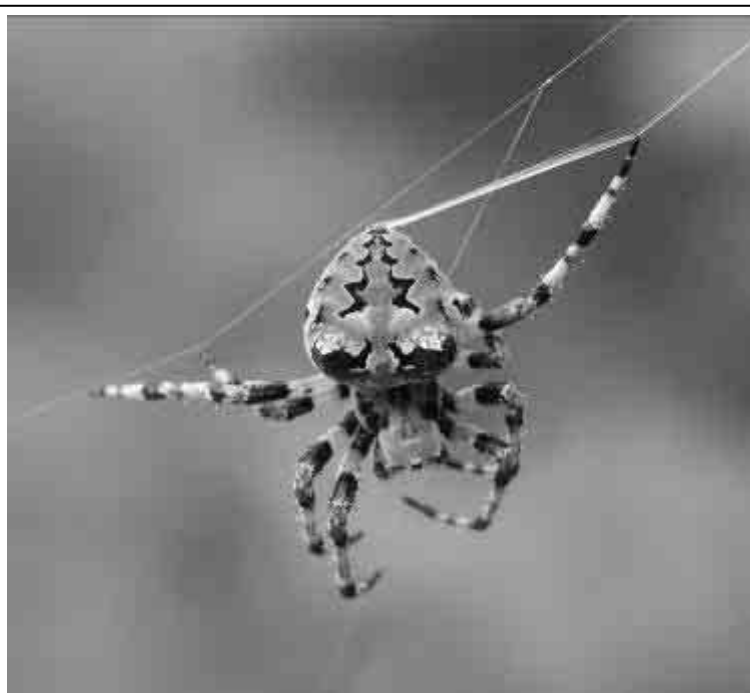
コケオニグモ *Araneus seminiger* (L.Koch)

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。さらに、生息に適した環境が少なく、開発等にもなう生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌は体長 20～27mm、雄は 12～14mm。大型のオニグモで背甲は黄褐色で後方は赤褐色になる。腹部は緑色でウメノキゴケの色に似る。両肩は隆起し葉状斑とも黒褐色。歩脚は緑色で黒褐色の環斑がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2008 年 7 月 21 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、北設楽郡設楽町・北設楽郡豊根村に分布する。

国内では北海道・本州・九州に分布する。

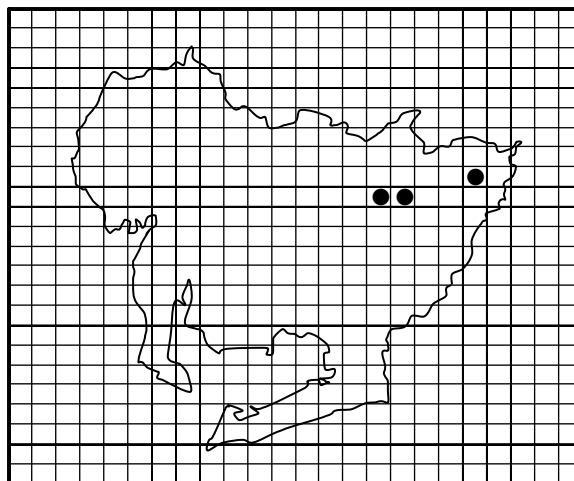
【生息地の環境／生態的特性】

奥三河の山地（温帯林）に生息する。過去に 8 個体しか記録されていない。うち、7 個体が設楽町裏谷原生林である。県内では、貴重な生息地である。夕方から夜間にかけて枝葉間に円網を張る。夏季に成体になるがみは県内から未発見である。

【現在の生息状況／減少の要因】

温帯林に生息しているが、数年に一度の割合でしか観察されない。全国的に珍しいクモである。個体数やその減少率は不明。ただし伐採による生息域の減少にともない、生息数はゼロとなることも予想される。

県内分布図



【保全上の留意点】

県内では、設楽町裏谷原生林が唯一ともいえる貴重な生息地である。ここは、本種以外にもシロタマヒメグモ・キヌキリグモ・キハダキヌキリグモなど貴重なクモが生息しているので、森林・草原を含めて環境の保全に力を入れる必要がある。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.83, p.217. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.21, p.94. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

マメイタイセキグモ *Ordgarius hobsoni* (O. P.-Cambridge)

【選定理由】

全国的に採集記録は少なく、
県内でも分布地は限られている。
個体数も少ない。

【形 態】

雌の体長 8～9mm。腹部背面
から側方・後方にかけて多数の
褐色半球状の隆起がある。マメ
イタの名は、褐色半球状の隆起
が駄菓子豆の豆板に似ているから
で、イセキは発見者の井関氏の
名に因んで付けられた。なお、
雄については不明である。



豊田市琴平町(トヨタの森), 2005 年 7 月 11 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市内（琴平町、加茂川町、
王滝町・野見町・勘八町、足助町など）で分
布が確認されているのみである。

国内では、本州（関東以南）・四国・九州・
南西諸島に分布するが、いずれも観察・採集
例は少ない。

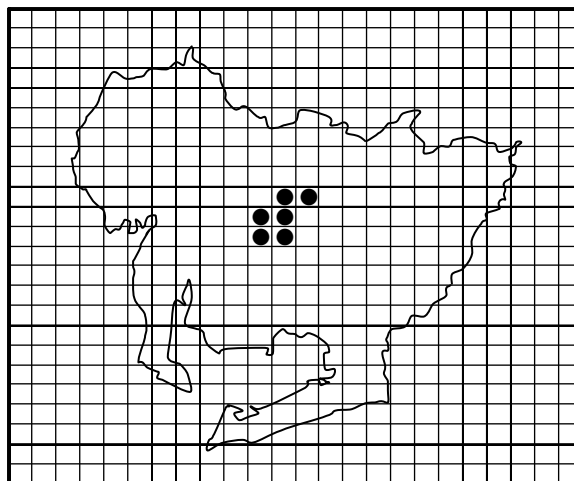
【生息地の環境／生態的特性】

昼間は葉裏に止まってじっとしている。夜
間に活動、第2脚先端より粘球を糸で釣り下
げ、それを投げ縄のように回転させ蛾の仲間
を捕獲する習性がある。

【現在の生息状況／減少の要因】

不明。

県内分布図



【保全上の留意点】

もともと、個体数が少ないものと思われる。確認された分布地の環境の保全が重要である。

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

ムツトゲイセキグモ *Ordgarius sexspinosus* (Thorell)

【選定理由】

県内の確認できた生息地は 4 カ所で、いずれも個体数は少ない。

【形態】

体長雌 8～10mm。頭部背甲は濃褐色で 2 本の尖った突起が縦に並び、後方にも 4 突起が横に並ぶ。腹部背面は黒褐色で白い網目模様がある。その両肩は隆起、その上に小突起がいくつか見られる。後端にも 4 個の突起がある。雄は小さく、体長 2mm、別種のようなのである。



名古屋市千種区(平和公園), 2008 年 7 月 12 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内の分布は、現在まで名古屋市守山区と千種区（平和公園）・豊田市（トヨタの森）・豊川市（旧宝飯郡音羽町）で確認されただけである。個体数は少ないので見つけにくい、2008 年に 2 カ所で採集されたので、まだ発見される可能性はあると思われる。

国内では、本州（関東以南）・四国・九州・南西諸島に分布する。

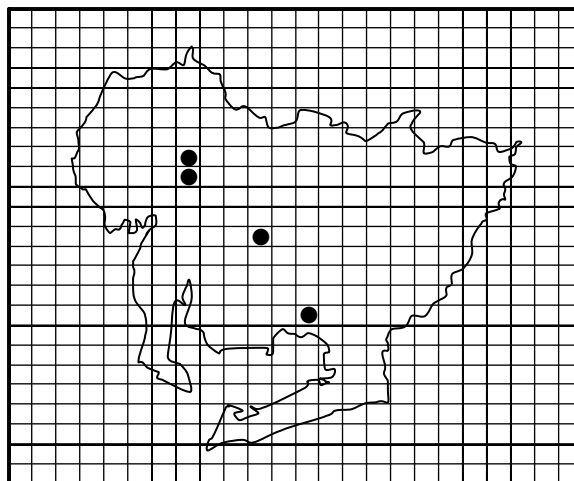
【生息地の環境／生態的特性】

昼は広葉樹の葉の裏に潜んでいる。夜、枝や葉に簡単な糸を引き張り、そこから第 2 脚の先端に粘球を糸で釣り下げ、それを投げ縄のように回転させ、蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない希産種である。県内の生息確認地での個体数は少ない。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息環境（二次林）の確保。特に分布確認地での環境を変えないような努力が必要である。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.83, p.217. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

ツシマトリノフンダマシ *Paraplectana tsushimensis* Yamaguchi

【選定理由】

県内では、雌 2 頭が記録されているだけである。全国的に見ても個体数の少ない極めて珍しいクモである。

【形態】

雌は体長 6～7mm、雄は未知。腹部は赤色で中央に 4 個、周辺部に 8 個の黒色円紋がある。一見、ナナホシテントウに似る。名前のツシマは最初の発見地の対馬、トリノフンダマシは別種、鳥の糞に似たトリノフンダマシの仲間を表している。



新城市(旧鳳来町)鳳来寺山, 2004 年 5 月 30 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

南方系のクモ。県内では豊川市（旧宝飯郡音羽町）と新城市鳳来寺山で生息が確認されている。

国内の分布は、本州（関東以南）・四国・九州・対馬・南西諸島。

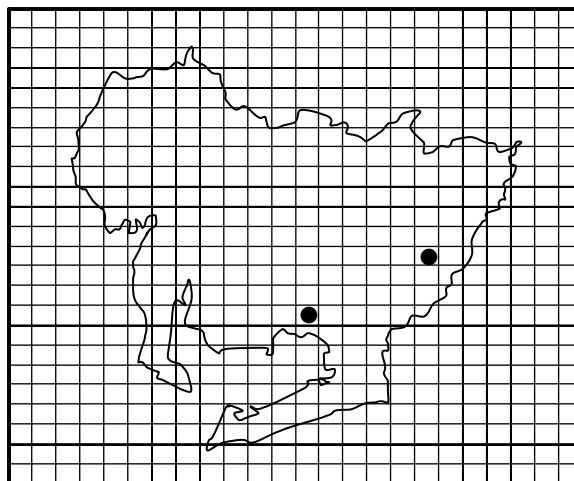
【生息地の環境／生態的特性】

林道沿いの梅林で確認された。夜行性で同心円水平円網を張る。昼間は葉裏に静止する。

【現在の生息状況／減少の要因】

南方系の希産種で、県内では 2 頭のみ確認されている。生息状況は不明。

県内分布図



【保全上の留意点】

二次林や果樹園を好むと言われているので、里山の保全が望まれる。南方種系であるから、県内では生息に適した環境が少ないと思われる。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.83, p.217. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.28, p.111. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.

ワクドツキジグモ *Pasilobus hupingensis* Yin, Bao et Kim

【選定理由】

全国的に採集記録は 20 例に満たない希少種である。南方系のクモで本州・九州・南西諸島に分布する。県内では 3 ケ所から各 1 個体が確認された（谷川ほか, 2006）。

【形態】

雄の体長は 2～3mm、雌は 8～10mm。体色は茶褐色で雌は腹部背面に多数の隆起があり、腹部は横に広く、縦の 2 倍ほどある。名の由来のワクドは地方名でヒキガエル、ツキジは発見者名である（新海, 2006）。



豊田市琴平町(トヨタの森), 2008 年 3 月 6 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市琴平町（大原, 2008）・同京ヶ峰・北設楽郡設楽町で確認された。

国内では、本州（関東以南）・九州・南西諸島に分布するが、いずれも観察・採集例は極めて少ない。

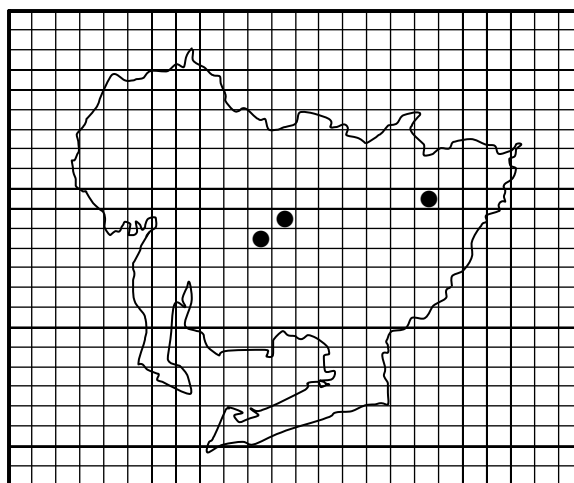
【生息地の環境／生態的特性】

山地の常緑、落葉樹の混生する低木林からビーティングと目視により発見された。主に昼間は葉裏に静止し、夕方から夜間にかけて、樹間に粘性の強い三角形の水平の網を張る（新海, 2006）。

【現在の生息状況／減少の要因】

不明。

県内分布図



【保全上の留意点】

もともと、どの地域においても個体数が少ないものと思われる。確認された分布地の環境の保全が重要である。

【引用文献】

Akio Tanikawa, Yung-Hau Chang & I-Min Tso, 2006. Identity of a Japanese spider species recorded as *Pasilodius bufoninus* (Araneae: Araneidae), with a description of the male considering the sequence of mtDNA.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

大原満枝, 2008. トヨタの森の蜘蛛たち ワクドツキジグモ. まどい No.46. 中部蜘蛛懇談会.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.

イサゴコモリグモ *Pardosa isago* Tanaka

【選定理由】

県内では、豊川と矢作川の中流域の河川敷に生息するが、生息域はきわめて狭く、且つ個体数も少ない。河川工事等によつて生息域の開発等で、個体数の減少が心配される。

【形態】

雄雌とも体長 5～7mm。腹部は灰褐色で細長い。背甲には銀灰色の毛が密生している。歩脚には黒褐色の輪紋がある。



岡崎市岡町(乙川), 2006年9月14日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊橋市と豊川市（旧豊川市・旧宝飯郡一宮町）にまたがる豊川河川敷、豊田市（旧旭町）矢作川本流、岡崎市乙川（矢作川支流）河川敷に分布する。

国内では本州・四国・九州に分布する。

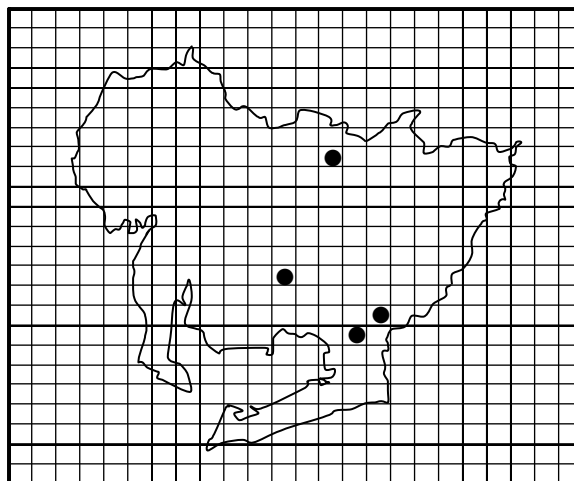
【生息地の環境／生態的特性】

河川敷を生息地とし、拳大の石の間を敏速に徘徊する。5月ごろから成体になり、雌は糸器に卵嚢を付けて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

確認されたすべての地域で、数頭から数十頭と極めて少ない。

県内分布図



【保全上の留意点】

河川の護岸工事による生息地の破壊。特に、生息地では車の河川敷への乗り入れ、釣りやバーベキュー等の娯楽を目的とした立ち入り等は慎むべきである。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.115, p.246. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.44, p.165. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.

テジロハリゲコモリグモ *Pardosa yamanoi* Tanaka et Suwa

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。湿地のクモで、生息地は数ヶ所と限られている。生息できる適地が少ない上、近年、湿地の開発等にもない激減している。

【形態】

雌雄とも体長 5～7mm。雄の背甲・腹部は濃茶褐色で、眼域から腹部後方にかけて乳白色の縦斑がある。第1脚の全節に多数に白毛を生じる。雌は第1脚の白毛を欠き茶褐色。背甲・腹部は茶褐色で、眼域から腹部後方にかけて淡褐色の縦斑があり、腹部上面に白斑がある（H. TANAKA & M. SUWA, 1986）。



新城市(旧作手村)長ノ山湿原, 2008年5月25日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、名古屋市・豊川市・岡崎市・新城市（旧作手村）に分布する。
国内では本州・九州に分布する。

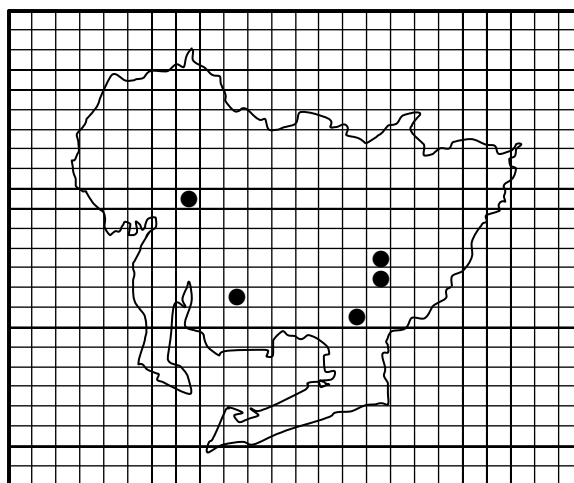
【生息地の環境／生態的特性】

主に、湿原に生息し地表を徘徊する。初夏に成体になり、雌は卵嚢を糸器に付けて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

2008年6月に調査した名古屋市天白区（天白溪湿地）では、湿地の消滅と同時に絶滅したとおもわれる。現在、新城市（旧作手村）長ノ山湿原が貴重な生息地となっている。

県内分布図



【保全上の留意点】

湿原の開発は極力避けるべきである。

【引用文献】

H. TANAKA & M. SUWA, 1986. Descriptions of Tereee New Spiders of the Pardosa Laura Complex (Araneae:Lycosidae) Based on Their Morphology and Ecology, Acta Arachnol., 34: 49-60.

【関連文献】

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.

シノビグモ *Shinobius orientalis* (Yaginuma)

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。山地の溪流に局地的に生息するが、個体数は少ない。県内では生息適地が少なく、治水・河川工事等にもなう生息域の減少や、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌雄とも体長 6～8mm。背甲は黄褐色で黒褐色の斑紋がある。腹部上面には黄褐色で黒褐色の複雑な斑紋がある。歩脚は黄褐色で輪紋がある。



北設楽郡設楽町駒が原, 2008 年 5 月 13 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、北設楽郡設楽町・北設楽郡津具村・豊田市（旧旭町）・豊田市（旧足助町）等に分布する。

国内では本州・四国に分布する。

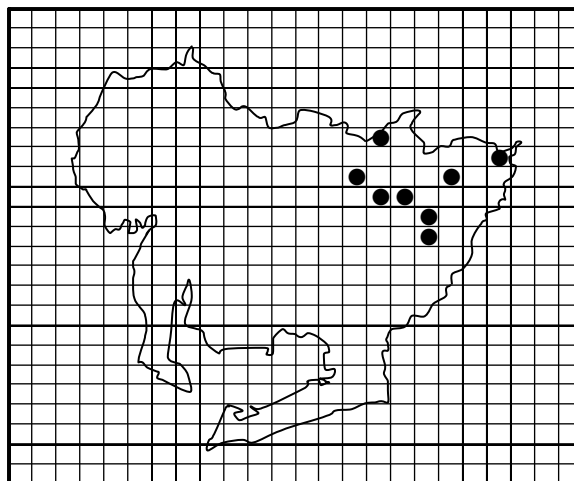
【生息地の環境／生態的特性】

山地の溪流の水際を徘徊したり、石のすき間に潜んでいる。5 月ごろから成体になり、主に、水生昆虫を捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

どの生息域においても個体数が少なく、数頭が生息しているにすぎない。2001 年以降北設楽郡設楽町裏谷から記録されていない。

県内分布図



【保全上の留意点】

治水・河川工事の際、生息環境を確保することが肝要である。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.106, p.237. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.47, p.175. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.164. 文一総合出版, 東京.

カトウツケオグモ *Phrynarachne katoi* Tikuni

【選定理由】

全国的に個体数の少ないクモ。
県内でも採集の記録は少ない。

【形態】

雌の体長 7～9mm、雄は 2～3mm。葉の上で脚を縮めて静止している様子は鳥の糞に似ている。背甲には多数の小さい突起、腹部の背面には大きい突起があり、それぞれの突起の頂点には1本の毛が生えている。頭胸部・腹部と第1・2脚の先端は黒褐色である。



瀬戸市海上町(海上の森), 2008年6月12日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内で確認された生息地は、北設楽郡東栄町・豊田市猿投山・豊田市勘八町・瀬戸市海上の森近くと犬山市八曾の5地点である。

国内では、本州・四国・九州・南西諸島（新海，2006）に分布するが、いずれも採集例は少ない。

【生息地の環境／生態的特性】

豊田市では高さ1mほどのヒノキの葉先で見つけられ、瀬戸市ではヒヨドリバナの葉の裏に静止しているところを写真撮影された。一般的に山地の低木や草の葉上で静止している状態で発見される。ハエなどが近づくと、第1脚を小刻みに動かして捕食する。杉山時雄・大原満江両氏の観察によると、「クモが飛んできたハエの一匹を捕えて食べていると、別のハエが後ろから近づき、腹部の突起を舐めているような行動をしていた」（杉山・大原，2003）という。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数は極めて少ないものと思われる。生息状況は不明の点が多い。

【保全上の留意点】

今まで確認された生息地付近の環境保全。一般的に殺虫剤や除草剤の使用は慎むべきである。

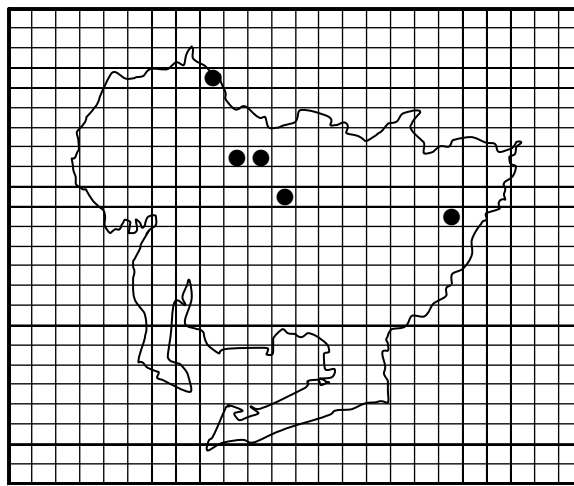
【引用文献】

杉山時雄・大原満枝, 2003. カトウツケオグモの捕食行動の観察. 蜘蛛(KUMO) No.36. 中部蜘蛛懇談会.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.250. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.140, p.267. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.210. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.250. 文一総合出版, 東京.

県内分布図



ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch

【選定理由】

地中の縦穴で生活するクモである。30年ほど前までは、都市部でも神社仏閣・公園など中心に、ごく普通に見られた種であったが、環境破壊等により急速に減少している。

【形態】

体長雌 15～18mm、雄 6～8mm。背甲にある中窩は点状で深い。雌の第1脚は2～3脚に比べて極めて細い。雄はすべての脚が細く、別種のように見える。



豊明市西川町, 2006年10月18日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では豊田市を中心に名古屋市・安城市・刈谷市・豊明市など西部に記録が多い。調査が進めば、県東部まで分布が広がるものと思われる。

国内では、本州・四国・九州に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

比較的明るい乾燥した芝生・床下などの地中に縦穴を掘り、内部を糸で綴った管状の住居を造る。トタテグモのように出入口に扉は付けず穴が開いているだけであるが時には糸で塞ぐこともある。また、穴を中心として放射状に受信糸（触糸）を出すこともある。

【現在の生息状況／減少の要因】

地表は土木建築工事の場合真っ先に破壊の対象となる。本種も、前記のように地中に縦穴を掘り生活するという特性があるため、地表面を削り取ったり、コンクリート化したりすることによる生息場所の消失が大きな原因であると考えられる。加えて、トタテグモと同様、除草剤や農薬の影響も考えられる。現在、公園や神社などでジグモの生息数が減少傾向にあるのも同じ原因ではないかと思われる。

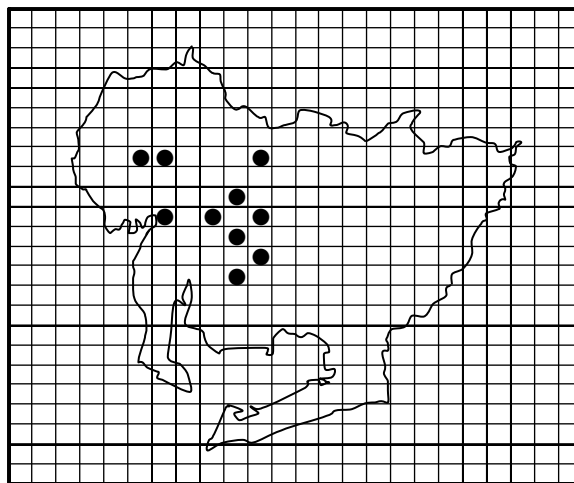
【保全上の留意点】

土木建築による破壊を防ぐことは難しいが、少なくとも除草剤などの使用に際しては、十分な配慮が必要である。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.20, p.164. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.3. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.25. 文一総合出版, 東京.

県内分布図



カネコタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch)

【選定理由】

本種を含む地中性のクモは、崖地（法面）などの改修によるコンクリート化や人為的な土地の攪乱・崩壊によって生活場所を失うことが多い。そのため、都会の周辺では激減している。山地等ではまだ比較的多く見られるが、将来的には心配があり保護の対象とした。

【形態】

体長雌 12～18mm、雄 9～13mm。背甲の中窩は縦向き。上顎の牙は上下に可動。胸板は長さと同幅がほぼ同じ、有毛だが前方に無毛の部分がある。



北設楽郡設楽町裏谷, 2007年5月11日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、海拔1mの海岸近くから1,200m（茶臼山）まで、県内全域に分布する（須賀, 1989）。環境省リストの準絶滅危惧種であるが、県内ではキシノウエトタテグモよりも分布範囲が広い。

国内では本州の岩手県から岡山県まで局地的に分布する。関東地方・中部地方に多い。

【生息地の環境／生態的特性】

通常、崖地に20cm以下の横穴を掘り、入り口に両開きの扉を付け、その中で生活する。扉には周りのコケや土を付けてカムフラージュしている。

【現在の生息状況／減少の要因】

住宅建設・道路工事等に伴う崖地の人為的な破壊ならびに石垣・コンクリート化により生活場所が失われることが大きな要因である。除草剤・農薬散布の影響も考えられる。都会周辺では、激減している。

【保全上の留意点】

崖地を工事する際の注意が肝要である。生息地での除草剤・農薬等の散布に際しては、十分な配慮が必要である。

【引用文献】

須賀瑛文, 1989. 愛知県・三重県・静岡県におけるトタテグモ類三種について. 蜘蛛(KUMO) No.22. p10-11. 中部蜘蛛懇談会.

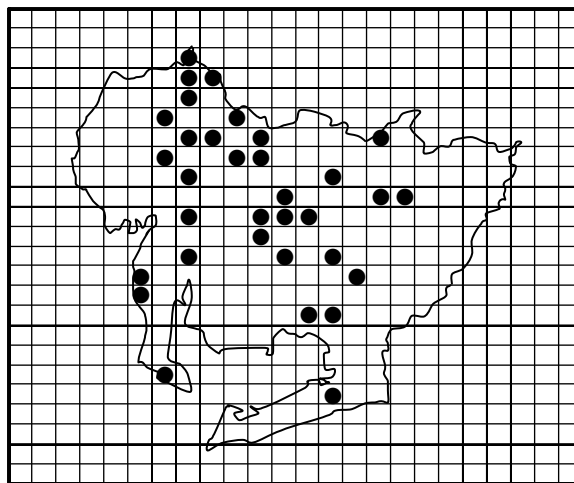
【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.18, p162. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.2. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.24. 文一総合出版, 東京.

県内分布図



キノボリトタテグモ *Conothele fragaria* (Dönitz)

【選定理由】

県内各所に棲んでいるが、どこでも個体数が少なく減少しつつある。特に、地表に近いところに住居を造ったクモは除草剤の被害に遭うことも多い。

【形態】

体長雌 10～11mm、雄 6～8mm。背面の中窩は横向き前曲。



岡崎市茅原沢, 2007年9月9日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では低地から海拔 720m まで広く分布(須賀,1989)するが、各生息地とも個体数は少ない。

国内では、本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

樹皮上、堀、石灯籠や記念碑などの表面、崖地の石や岩・木の根の間などに住居を造る。住居は袋状で、長さ 2～3cm、下を向いた出入口に片開きの扉を付ける。扉の上を通る獲物を住居内に引きずり込む。扉や袋には付近のコケ・樹皮・土などを付けているので、住居を見つけるには慣れないと難しい。県内での観察によれば、樹皮上と崖地の地中に住居をつける割合はおよそ 1：1 である(須賀,1989)。

【現在の生息状況／減少の要因】

都会近くでは本種の住みかである苔の生えた古木・堀・墓石などが減少している。特に、本種がよく生息する神社仏閣においてこの傾向が強い。また、ムカデによる害もあると言われるが、減少の原因は定かではない。

【保全上の留意点】

社寺林等の保護。また、生息地では、農薬・除草剤の散布に注意すべきである。

【引用文献】

須賀瑛文, 1989. 愛知県・三重県・静岡県におけるトタテグモ類三種について. 蜘蛛(KUMO) No.22. p10-11. 中部蜘蛛懇談会.

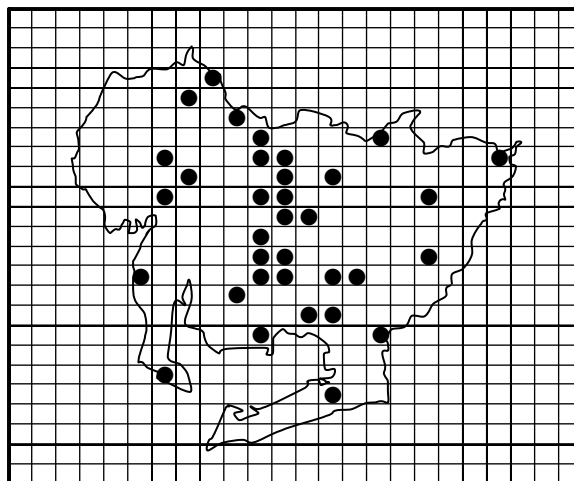
【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.19, p163. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.4. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.

県内分布図



ニシキオニグモ *Araneus variegatus* Yaginuma

【選定理由】

県内では、希産種で採集・観察例は4例(各1頭)しかない。開発等の影響で生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

大型のオニグモで雌は体長12～16mm、雄は体長9～12mm。腹部上面は黄褐色と黒褐色の複雑な模様がある。腹部中央には黄褐色の縦斑がある。腹部下面は黒色で外雌器と糸器の間に、大きな橙色の斑がある。



渥美郡渥美町(伊良湖岬), 2000年10月1日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、北設楽郡設楽町・豊田市(旧稲武町)・豊川市(旧一宮町)・田原市(旧渥美町)に分布する。県内では♂は未記録である。国内では、北海道・本州・九州に分布する。

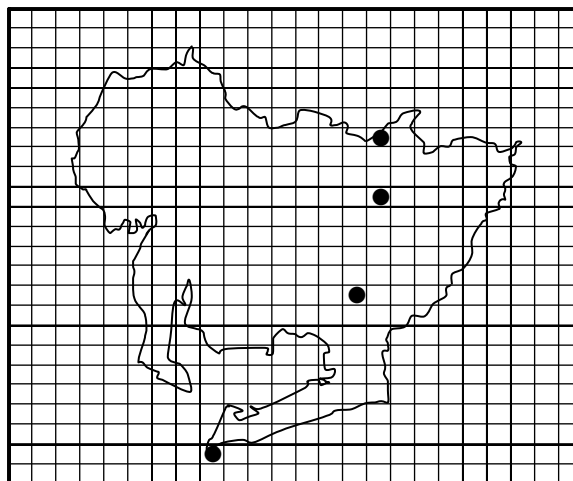
【生息地の環境／生態的特性】

主に、林縁部や神社仏閣の境内などの樹間に円網を張る。県内では、温帯林の二次林から海岸林にいたるまで生息を確認している。生態的に不明な点が多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと県内では個体数の少ない種で、最近の記録としては、2007年4月に豊川市(旧一宮町)で♀幼体を確認した。個体数やその減少率は不明。

県内分布図



【保全上の留意点】

県内では、山地と海岸林から記録された。生態上不明な点が多いが、少なくとも生息が確認された環境の保全が必要である。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.66, p.205. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.23, p.100. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.

シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand

【選定理由】

県内ではもともと個体数の少ない種であり、観察・採集例も少ない。近年、開発等による生息適地の減少も心配である。

【形態】

雌、体長 6～8mm、頭胸部は赤褐色、腹部背面の地色は黒褐色～茶褐色、その最広部付近を横に黄白色～白色の帯があり、最後部は淡黄色となる。また、頭胸部は赤褐色であるが、腹部は灰褐色の個体 (nigra type) もあり、色彩は個体によって変異がある。雄は小さく、体長 1.5mm。



岡崎市八ツ木町(おかざき自然体験の森), 2005 年 8 月 2 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内には中北部 (名古屋市千種区・緑区、豊明市、豊田市、岡崎市など) を中心に広く分布する。

国内では、本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

昼は、ススキや広葉樹の葉の裏に脚を縮めて止まっている。夜間、草間・樹間に同心円状の水平円網を張り活動する。

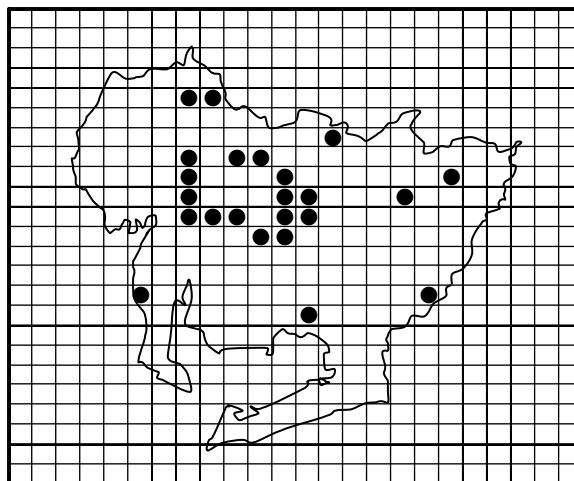
【現在の生息状況／減少の要因】

広範囲に分布する割には個体数の少ない種である。草原等生息適地そのものの減少、管理地等での農薬・除草剤の散布等が減少の要因であろう。

【保全上の留意点】

開発時、ススキ草地や疎林を残すなどの配慮が必要である。また、公園など管理地での農薬・除草剤等の散布には注意すべきである。

県内分布図



【特記事項】

従来、クロトリノフンダマシ (*C. nigra* Yaginuma) と呼ばれていたものは本種の色彩変異 (nigra type) で 2001 年、syn. とされた (A. Tanikawa, 2001)。

【引用文献】

Akio Tanikawa, 2001. Tow new synonymies of the spider genus *Cyrtarachne* (Araneae:Araneidae).
ACTA ARACHNOLOGICA Vol.50, No.1

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.82, p.216. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.110. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

アカイトトリノフンダマシ *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand

【選定理由】

県内では、もともと個体数が少ない種であり、土地開発等に伴い、ススキ草原等の生息適地の消滅も減少に拍車をかけている。

【形態】

雌、体長 5～7mm。頭胸部背甲は黄褐色。腹部背面は赤色地に白斑、その最広部の左右に 1 対の黒点がある。また、腹部背面が黒色の個体（黒色型）、黒色で後方部が暗赤色の個体（ソメワケ型）なども見られる。いずれにしても腹部の色彩には変異が多い。雄は小さく、1.5mm。



豊田市(旧藤岡町)上川口町, 2008 年 8 月 9 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、名古屋市名東区・守山区、犬山市、瀬戸市、豊田市（旧豊田市、旧稲武町）、岡崎市、新城市（旧鳳来町）、設楽町などに広く分布する。しかし、いずれの産地でも個体数は少ない。

国内では、本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

ススキ草原・広葉樹林に棲み、昼はそれらの葉裏に静止している。夕方から活動を始め、同心円状の水平円網を張り、主として蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない種である。草原の減少や農薬等の散布が減少に拍車を掛けている。

【保全上の留意点】

開発に際しては、ススキ草原（周辺部の環境も含め広く）など生息場所を残すこと。また、管理地などでの除草剤や農薬などの散布に注意する。

【特記事項】

従来ソメワケトリノフンダマシ（*C. induta* Yaginuma）と呼ばれていたものは、本種の色彩変異の一つである（A.Tanikawa, 2001）。

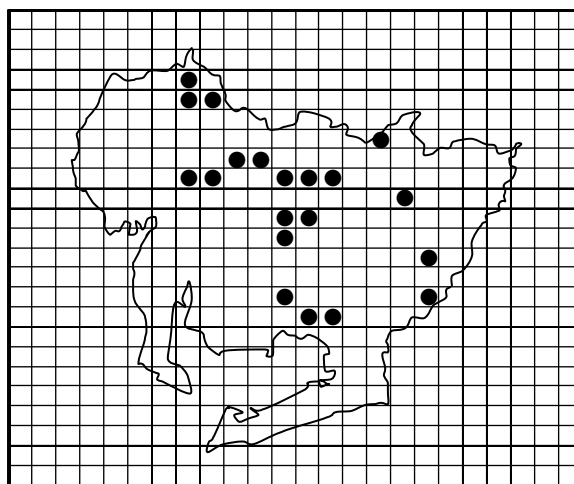
【引用文献】

Akio Tanikawa, 2001. Two new synonymies of the spider genus *Cyrtarachne* (Araneae:Araneidae).
ACTA ARACHNOLOGICA Vol.50, No.1

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.82, p.216. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.110. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

県内分布図



トゲグモ *Gasteracantha kuhlii* C. Koch

【選定理由】

県内では三河部の山地を中心に分布するが、分布地は限られている。また、個体数、採集・観察例ともに少ない。

【形態】

雌は体長 7～8mm、腹部はキチン化していて硬く、3 対の黒色の棘がある。腹部背面は白色で黒い斑紋がある。雄は体長 3～4mm、腹部には 3 対の棘はなく、1 対の突起がある。腹部背面の色・模様は雌に似ている。



豊田市(旧足助町)桑田和町, 2006 年 10 月 22 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、落葉樹林帯を中心にした三河部の山地（豊田市足助町・稲武町、北設楽郡設楽町、新城市鳳来町・大島町・中宇利、豊橋市多米町など）に、わずかな記録がある。

国内の分布は、本州・四国・九州・南西諸島である。

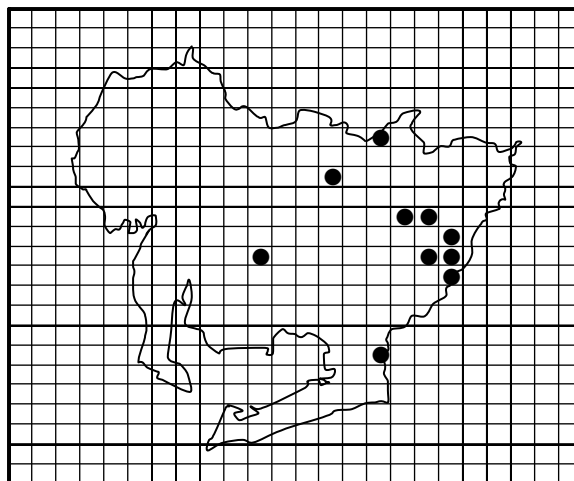
【生息地の環境／生態的特性】

山地の樹間に垂直円網を張る。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと観察例・採集例は少ない。個体数も多くはない。

県内分布図



【保全上の留意点】

落葉樹林帯の保全。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.83, p.217. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.111. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.228. 文一総合出版, 東京.

ミナミコモリグモ *Pirata meridionalis* Tanaka

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種である。主に、湿地や湿った草地に生息する。生息地は数十ヶ所と限られている。近年、湿地や草地の開発等で生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌雄とも体長 4～6mm。頭胸部は褐色で背甲に Y 字型の斑がある。腹部は濃茶褐色で白点が散在する。



豊田市(旧藤岡町)飯野町, 2008 年 5 月 29 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、名古屋市・豊川市・豊田市（旧豊田市・旧藤岡町・旧下山村）・岡崎市・豊橋市・弥富市等に分布する。

国内では本州・四国・九州に分布する。

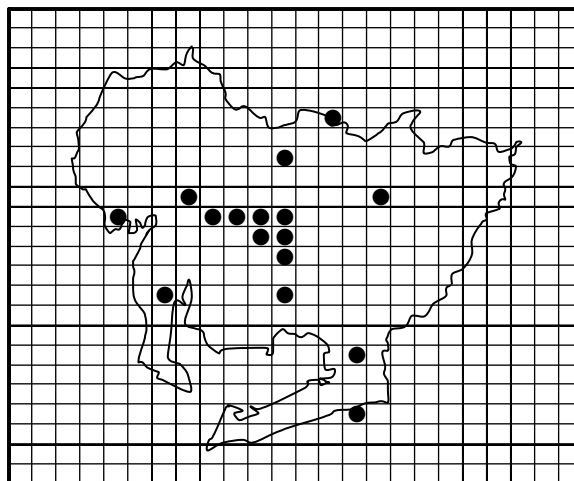
【生息地の環境／生態的特性】

主に、湿原や湿った草地に生息し地表を徘徊する。初夏に成体になる。雌は卵囊を糸器に付けて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

いずれの生息地も個体数は少ない。開発等による湿原や草原の消滅で生息域が失われ、個体数が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

宅地や道路工事等による開発の際、生息地の湿原や草地を残すことが肝要である。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.114, p.244. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.169. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.

オビジガバチグモ *Castianeira shaxianensis* Gong

【選定理由】

県内では広範囲に分布するが、もともと採集・観察例の少ない種である。主に、河川敷や草原に棲み、どの生息地においても個体数は少ない。開発や河川工事等によともなう生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌雄とも体長 6～8mm。全体に灰褐色で細長く腹部の中ほどがややくびれ、灰色の横斑がある。歩脚は褐色で腿節に黒い条がある。



常滑市常滑字菅場, 2005 年 11 月 22 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、名古屋市・半田市・常滑市・知立市・豊田市・岡崎市・豊川市・豊橋市等に分布する

国内では本州に分布する。

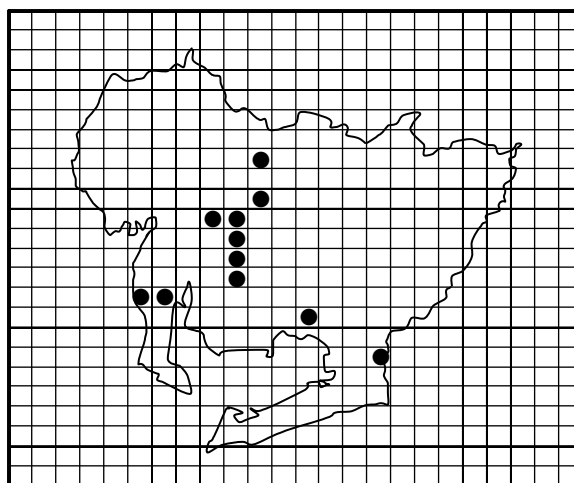
【生息地の環境／生態的特性】

河川敷や草原に棲み、地表を素早く徘徊する。一見、アリに似る。

【現在の生息状況／減少の要因】

どの生息地においても個体数は少なく、単独か数個体しか観察されていない。近年、開発等による草原の消滅で生息域が失われ、個体数が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

河川敷の護岸工事や、草原の開発は最小限にとどめ、生息域の保存が望まれる。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.128, p.256. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.49, p.184. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.23. 文一総合出版, 東京.

アワセグモ *Selenops bursarius* Karsch

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種（希産種）である。主に、社寺林のスギ・ヒノキの樹幹に棲むが、確認されている生息地は豊田市と豊川市の3ヶ所だけである。樹木の伐採や殺虫剤の散布等によっては、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌雄とも体長9～13mm。背甲は褐色で中窩は黄褐色。歩脚は褐色で黒色の輪紋がある。腹部は灰褐色で不明瞭な矢はず斑がある。



豊田市猿投町(猿投神社), 2007年5月20日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、豊田市・豊川市の合計3ヶ所に分布する。

国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

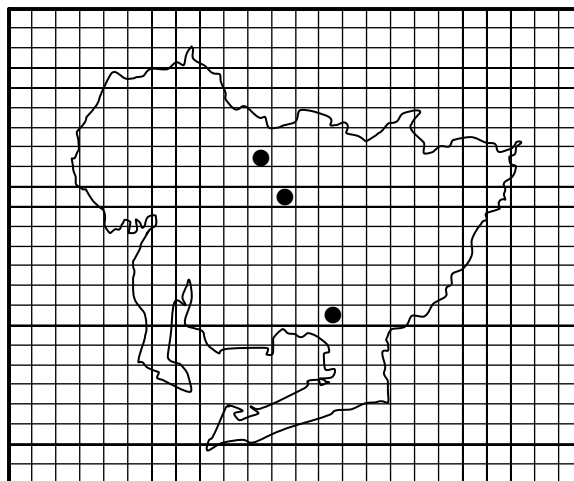
【生息地の環境／生態的特性】

豊田市・豊川市とも社寺林のスギの古木に生息している。昼間は樹皮のすき間に潜んでいるが、夜間、樹幹を徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊田市の猿投神社の境内では生息密度は高いが、豊田市千鳥町と豊川市の社寺林ではスギの古木が数本しかなく、個体数は少ない。

県内分布図



【保全上の留意点】

社寺林の古木を残すこと。生息地での殺虫剤の散布に際しては、十分な配慮が必要である。

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.52, p.196. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

アシナガカニグモ *Heriaeus mellottei* Simon

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種である。主に、山地から記録されているが、個体数は少なく局地的である。道路工事や開発等にもなう生息域の縮小、個体数の減少が心配される。

【形態】

雌は体長 6～7mm。雄は体長 5～6mm。全体に黄緑色で、頭胸部・腹部・歩脚は多数の長い太い毛でおおわれている。



豊田市西広瀬町, 2008 年 5 月 24 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、小牧市・岡崎市・豊田市（旧豊田市・旧足助町）・新城市（旧新城市・旧風来町）等に分布する。

国内では本州・四国・九州に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

山地の草原に生息し、葉上に静止し目前に近づいた小昆虫を捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

主に、山間部の草原を生息域としている。豊田市加茂町では 2004 年 5～6 月にかけて最大 40 頭近い個体が記録されたが、このような事は稀で、普段は 1～数頭である。6 月下旬ごろに♀が卵のうを保護しているのが観察されるが、生態などは不明な点が多い。

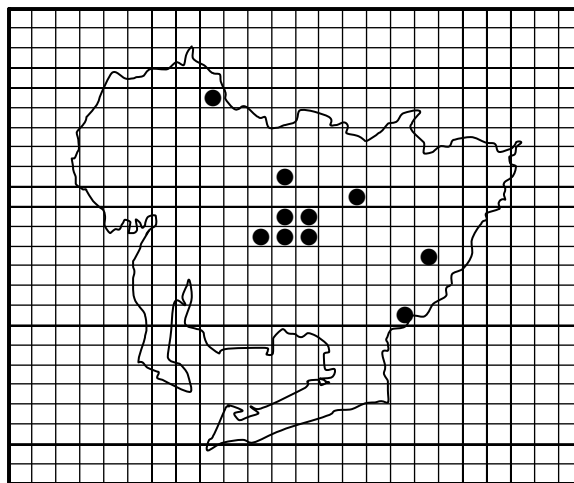
【保全上の留意点】

生息地での道路工事や宅地等による開発は極力避け、除草剤・農薬等の散布に際しては、十分な配慮が必要である。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.139, p.267. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.55, p.208. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.

県内分布図



オビボソカニグモ *Xysticus trizonatus* Ono

【選定理由】

県内では、もともと採集・観察例の少ない種である。山林や社寺林などの樹幹に棲み、樹皮のすき間に潜んでいるのでなかなか発見できない。

【形態】

雌の体長 7～8mm。雄の体長 5～6mm。頭胸部は茶褐色で背甲は淡褐色。後方に 1 対の黒斑がある。腹部は赤褐色で黒色の細い横斑がある。



安城市大岡町(大岡神社), 2003 年 5 月 14 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、北設楽郡豊根村・北設楽郡設楽町・岡崎市・安城市・名古屋市に分布する。

国内では、北海道・本州・四国・九州に分布する(新海, 2006)。

【生息地の環境／生態的特性】

山地では、広葉樹や針葉樹の樹幹に棲むが、平地では、公園や社寺林のマツなどから記録される。昼間は樹皮のすき間に潜み、夜間に樹幹を徘徊する。

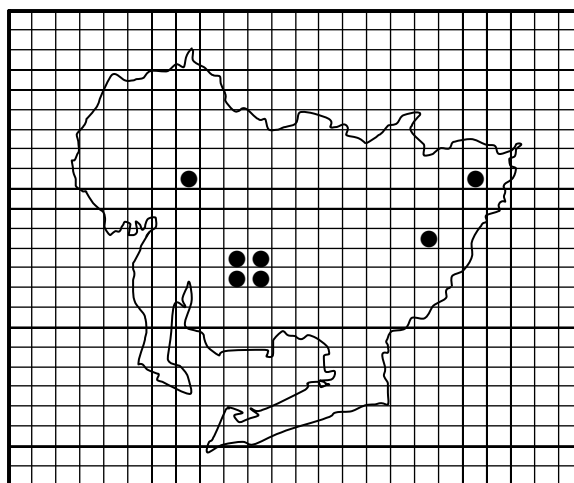
【現在の生息状況／減少の要因】

農薬散布やコモ巻きによる越冬個体の焼却で減少している。また、もともと個体数が少ないクモである。

【保全上の留意点】

本種は、松のコモ巻きの中かしばしば発見される(緒方, 2005)。コモ巻きは、越冬する害虫退治を目的とするものだが、害虫より益虫といわれているクモが圧倒的に多い。保護策として、コモの取り外しの際、害虫のみを選び分けて焼却することが望まれる。

県内分布図



【引用文献】

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.
緒方清人, 2005. クモ類. 新編安城市史 11 資料編 自然, 安城市.

【関連文献】

H. ONO, 1988. A Revisional Study of the Spider Family Thomisidae (Arachnida, Araneae) Of Japan, National Science Museum, Tokyo. 252pp.

コガネグモ *Argiope amoena* L. Koch

【選定理由】

草や木の間に円網を張り生息する全国的に見ても、もっとも普通なクモであったが、近年、都会を中心に減少傾向にある。生息環境の減少が主な要因であろう。現在でも、生息場所によっては個体数の多いところもあるが、今のうちに歯止めをかける必要があり選定した。

【形態】

体長雌 20～25mm、雄 5～6mm。腹部の黒と黄色の横縞が特徴である。



常滑市常滑字菅場, 2008 年 6 月 28 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内に広く分布する。良好な環境があれば多産するが、都会地では急速に減少している。国内の分布は、本州（関東南部以南）、四国、九州、南西諸島である。

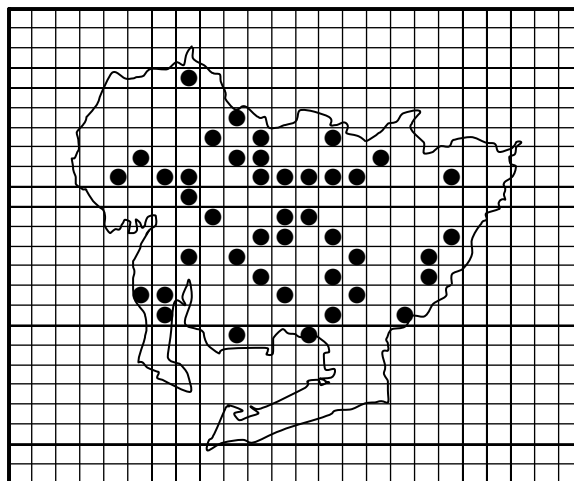
【生息地の環境／生態的特性】

草や木の枝の間や軒下などに垂直円網を張り、X 字状のかくれ帯（一部省略されることもある）を付け、その中央に止まる。一般に、日当たりのよいところに多い。網の近くに不規則に糸を引き、淡緑色の卵のうを吊す。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息できる環境の減少が主な要因であるが、他にも原因があるように思われる。現在でも、多産するところもあるが、ほとんどの生息地では個体数が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

公園などを建設する際、草地を残すなどの配慮が必要である。農薬・除草剤の使用はクモおよびクモの餌となる小動物生息のために極力避けたい。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.79, p.213. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.113. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.212. 文一総合出版, 東京.

トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo* (Bösenberg et Strand)

【選定理由】

県内では、近年、生息適地が減少、そのため個体数も減少傾向にある。

【形態】

体長雌 8～12mm。腹部は前方は灰褐色、後方は黄白色。前方両肩は灰褐色で隆起、その周辺は白い線で囲まれる。雄は 1～2mm と小さく、腹部は扁平で黄褐色、褐色の斑紋がある。



常滑市常滑字菅場, 2007 年 10 月 5 日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内各地。
国内では、本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

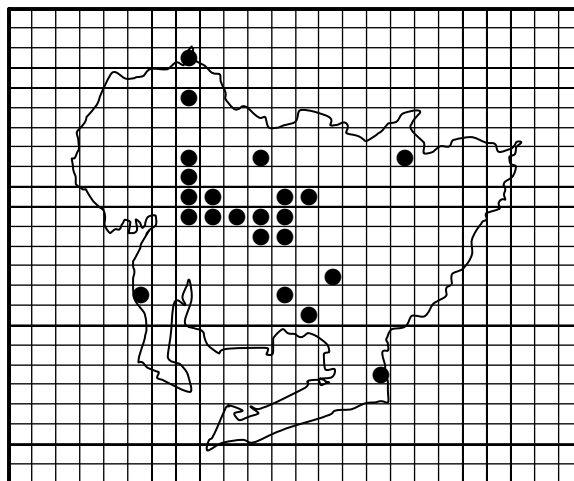
【生息地の環境／生態的特性】

昼は山道や林縁のススキ・広葉樹の葉の裏に静止している。その様子は「鳥の糞」のように見える。夜間に、ほぼ同心円状の垂直円網を張り、主に蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

開発に伴う生息適地の減少ならびに果樹園などの農薬散布の影響などが考えられる。

県内分布図



【保全上の留意点】

開発などの際、生息に適した林地・草原を残すなどの配慮が必要である。また、農薬等の散布には十分注意すべきである。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.82, p.215. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.3. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.162. 文一総合出版, 東京.

オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne inaequalis* Thorell

【選定理由】

県内では、生育適地の減少に伴い、分布地・個体数ともに減少傾向にある。

【形態】

雌は体長 12～13mm。頭胸部は、くすんだ黄色、腹部も同色で大きく、長さと同幅がほぼ同長、前方両肩は円く隆起して周縁に白い環がある。雄は小さく、2～2.5mm。



犬山市, 2005 年 7 月 24 日, 須賀瑛文 撮影

【分布の概要】

県内には広く分布する。
国内では、本州・四国・九州・南西諸島に分布する。

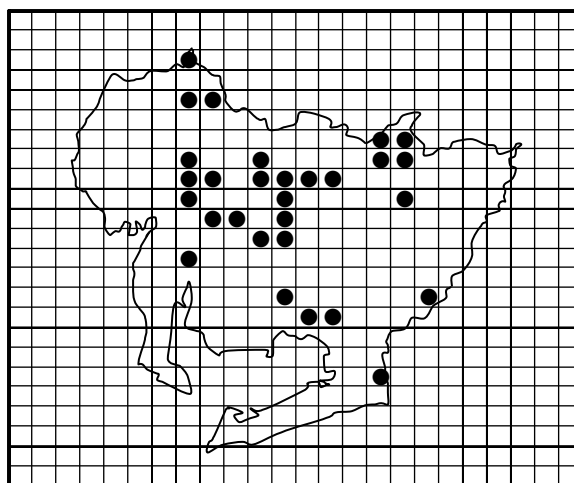
【生息地の環境／生態的特性】

山間部の道沿い、ススキや広葉樹の葉裏に脚を縮めて止まっている。夜になると、大型の同心円状垂直円網を張り、主として蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

開発等により生息場所が失われることが大きな要因である。ほかに、農薬の影響も考えられる。

県内分布図



【保全上の留意点】

開発の際、ススキ野原や疎林を残し生息環境を確保すること。また、農薬等の散布には十分注意すべきである。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.82, p.216. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.109. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.228. 文一総合出版, 東京.

ゲホウグモ *Poltys illepidus* C. Koch

【選定理由】

県内での分布は広いが、極めて局地的である。個体数も少ない。

【形態】

雌体長 12～18mm。背甲は赤褐色、腹部背面は黒色で両肩に1個ずつの大きな隆起があり、ほかに多くの小突起がある。腹部の形態は個体によって変異が大きい。雄は、4～6mm。



豊田市琴平町(トヨタの森), 2008年7月24日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、名古屋市名東区・守山区、常滑市、知多郡武豊町、豊田市、豊明市、岡崎市、豊川市（旧音羽町）などに分布が知られている。東三河の山地には記録がない。都市公園やその付近の住宅の庭などに多く見られ、分布的にみて不明の点が多い。

全国的には、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

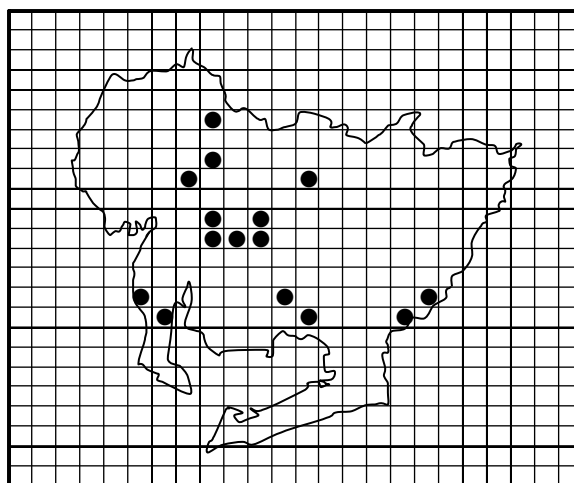
【生息地の環境／生態的特性】

昼は脚を縮めて枯れ枝などの先端に止まっていることが多い。この場合、枯れた木の芽かこぶに似ていて見つけにくい。夜は樹間などに円網を張り活動する。

【現在の生息状況／減少の要因】

採集例は少ない。近年、名古屋市名東区の都市公園を中心とした生息地が確認されている。しかし、県内全般から見ると生息地は局地的で、生息状況は不明の点が多い。

県内分布図



【保全上の留意点】

都市公園等における殺虫剤、除草剤の散布には十分注意すべきである。

【関連文献】

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. p.81, p.215. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.117. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.226. 文一総合出版, 東京.

ムロズミソレグモ *Takeoa nishimurai* (Yaginuma)

【選定理由】

全国的に見てもたいへん珍しいクモであるが、分布・生態とも不明な点が多いので情報不足とされた。

【形態】

体長雌雄ともに 11mm。腹部は長く一見コモリグモのようである。体全体、やや赤味を帯びた黄褐色である。頭胸部は中央と側縁の間に黒色の不規則な 2 縦条がある。胸板は周縁が赤褐色で中央部が淡色になり黒や白い毛が混生している。腹部背面は黒や褐色や白い毛が混生し、中央に淡色の不明瞭な矢筈斑がある。第 4 脚趾節の上方位のところに、列をなさず、群集した毛櫛（群）があるのが特徴である。



須賀瑛文, 1984. 真正蜘蛛類. 愛知の動物. 愛知県郷土資料刊行会. より転載
名古屋市天白区八事山田, 1977 年 5 月, 八木沼健夫 撮影

【分布の概要】

県内では、1997 年 5 月 1 日、名古屋市天白区の屋外の便所で永井均氏によって採集（八木沼, 1977）された記録があるだけである。

国内では、1962 年山口県光市室積町（旧国名：周防の国がスオウグモ科の名の由来）で雌が、同年京都市伏見区で雄がそれぞれ 1 頭ずつ記録された（八木沼, 1963）。その後、兵庫県・島根県隠岐島・大阪府で各 1 頭ずつ採集されただけで、名古屋市のものは、国内 6 頭目にあたるが、その後は発見されていない。

【生息地の環境／生態的特性】

山口県では、1 年以上放置しておいたレインシューズ上に産み付けられた卵からでた子グモの側にいた雌（八木沼, 1963）、京都市では座敷上を徘徊していた雄がそれぞれ採集された。また、名古屋市の雌は、アパートの便所（須賀, 1984）で採集されている。屋内性のクモと思われるが、生態的に不明の点が多い。

【現在の生息状況／減少の要因】

まったく不明である。

【保全上の留意点】

人の気の付かない意外な屋内の場所に生息しているように思われる。不明の点が多く対策は考えられない。

【引用文献】

- 八木沼健夫, 1963. Zoropsidae のクモ日本の Fauna に入る. Acta Arachnologica, 18 (1):1-6.
八木沼健夫, 1977. 分布資料. Atypus, 69:39.
須賀瑛文, 1984. 真正蜘蛛類. 愛知の動物. 41-62. (株) 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

【関連文献】

- 八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.17. 保育社, 大阪.

県内分布図

